

「罪の恐ろしさ」

ダビデの生涯Ⅴ

サムエル記第二 12章1節～14節

はじめに

昔の諺に「小人閑居して不善をなす」があります。人間は「暇だとなことろくなくをしない」という意味です。また「君子はあやうきに近寄らず」というのがありますが、これは、自分には自信があると思って危険な所に行くと失敗する。だから、悪いことには近づかないほうが良いという意味です。そのことがそのまま当てはまる、ダビデの生涯を見てみましょう。

1 ダビデの犯した罪（11章）。

ダビデは、ソウル王に殺されそうになっても堪え忍び、ソウルの死後、王となり、神殿建設の思いまでも与えられましたが、ここに至って、考えられないような罪を犯します。

その罪とは何だったのでしょうか。

(1) 姦淫の罪。

アモン人との戦いに、ダビデは総司令官ヨアブと自分の家来とイスラエルの全軍を戦場に送り、自分はひとりエルサレムに残っていました。

ある日の夕暮れに、昼寝から目覚めたダビデが屋上を散歩していると、ひとりの女がからだを洗っているのが見えました。それは姿・形の美しい人でした。調べさせると、部下のウリヤの妻であることが分かりました。

自分の欲望に負けたダビデは、夫が戦場に行って不在なのを幸いと、その女を呼び入れました。王の命令に背くことの出来ない女は、言われるままになりました。ところが、女に子が宿ったことがわかったのです。どうしたらよいか。ダビデは、自分の罪を隠そうとします。

(2) 殺人の罪

「そうだ。夫のウリヤを呼び返して、その女と過ごさせよう。そうすれば、ウリヤの子にだと言ってもだれも疑わないだろう」。ダビデは、ウリヤを戦場から呼び戻しますが、ウリヤは「神の箱も、イ

スラエルも、ユダも仮庵に住み、私の主人ヨアブも、私の主人の家来たちも戦場で野営しています。私だけが家に帰り、飲み食いして、妻と寝ることができましょか」と言って、家には帰らなかったのです。

ダビデは困りました。では、どうしたらいいのか。ダビデは、更に恐ろしいことを考えました。ダビデは、ウリヤに隊長ヨアブ宛ての手紙を持たせて戦場に帰しました。何も知らないウリヤが持って行った手紙には、こう書いてあったのです。「ウリヤを激戦の真正面に出し、彼を残してあなたがたは退き彼が打たれて死ぬようにせよ」 隊長は王の命令通りにし、ウリヤは死にました。夫が戦死したことを知った妻は、嘆き悲しみました。ダビデは彼女を引き取り、妻としました。女は男の子を生みました。ダビデは、戦死者の妻と子を引き取るという美談の主演を演じたのです。人々は、「さすがはダビデ王だ」と思ったに違いありません。

ダビデは、自分の思う通りにいったことで安心し、ダビデの罪を知る者は、ごくわずかの者で、それを告発する者はだれもいないと考えられました。

2 ダビデの悔い改め (27)。

しかし、ダビデの罪をすべてご存知に方がおられました。。

(1) ダビデの行ったことは主のみこころをそこなった (11:27)

ダビデは、すべてがうまくいった。人々は何も知らない。王に対しては、いっそう尊敬するようになっている。そう思ったに違いありません。しかし、すべてをご存じの方がおられました。それは、主なる神様です。主は、ご自分が選んだダビデがこのような罪を犯したのを黙って見過ごすはずがありません。彼を悔い改めさせ、もう一度、神の器をして用いなければなりません。

適用: 神が人に悔い改めを求めるのは、その人を駄目にするためではなく、その人を再び立ち上がらせて、用いようとするためです。

そこで、主は預言者ナタンをダビデのところに送りました。ナタンは一つの例え話をしました。その話を聞いてダビデは激しく怒りました。しかし、ナタンは「あなたがその男です」と言って、主からのメッセージを伝えます。

(2) 私は主に對して罪を犯しました (13)。

ダビデは、「私は主に對して罪を犯した」と言いました。罪とは、「神の戒めを破ること」です。ですから、神の戒めを破っているときは、私たちはただ悪いことをしているのではなく、神に罪を犯していることを知らなくてはなりません。

適用：ダビデは、罪を隠すことに成功しました。でも、彼の心の中はどうだったのでしょうか。

例話：ダビデの書いた詩篇 32 篇でこう言っています。「私は黙っていたとき、私の骨は疲れきり、私は一日中うめきました。昼も夜も、御手が私の上に重くのしかかり、骨の髄さえ、夏の日照りで渴ききったからです」(32:3-4)。

自分では隠せても、心の苦しみを消すことは出来ません。忘れることは出来ないのです。

3 罪の赦しと結果

では、ダビデはどのようにして立ち直ったのでしょうか。

(1) 主もまた、あなたの罪を見逃してくださった。あなたは死なない (12:13)。

主は、罪を悔い改める者を赦してくださいます。

適用：私たちが罪に苦しむのは、赦される確信がないからです。罪は、相手から「赦します」と言われなければ、安心できません。神様に犯した罪を、神は「赦す」とおっしゃってくださいます。

(2) 罪の結果からは逃れられない (14-18)

罪は赦されても、その結果から逃れることは出来ません。「人は、その蒔いたものを刈り取ることになる」からです。ダビデは、その後、大変な苦しみを負って行かねばなりませんでした。

例話：生まれた子は死にました。長男アムノンは、異母兄弟のタマルを犯したことで、これも異母兄弟の三男アブシャロムに殺されます。アブシャロムはダビデに謀反を起こし、死にます。

4 主のあわれみ

このような中にも、主のあわれみはありました。ウリヤの妻であったバテシバからソロモンが生まれ、ダビデを継ぎ、神殿を建て、イスラエルを繁栄させました。

そして、イエス・キリストは、バテシバの子ソロモンの子孫なのです。神様は、ダビデの犯した罪さえも、お用いくださいました。それは、イエス・キリストが、人間の罪を贖う救い主であることを示すためです。

結論

今朝は、ダビデの罪から学びました。私たちも弱く、誘惑に負け、罪を犯します。「小人閑居して不善をなす」は、一つの真理です。暇なときは気をつけましょう。「君主あやうきにちかよらず」。主は、なぜダビデの罪をお赦しになったのでしょうか。ダビデが悔い改めたからでしょうか。確かにその通りです。しかし、旧約聖書だけでは分からないところがあります。新約聖書で初めて、救い主キリストが登場し、十字架の上で、私たちの罪のために死んでくださったことが伝えられます。キリストは、ダビデの罪のためにも死なれたということです。

私たちも弱く罪を犯します。しかし、イエス・キリストが私たちの罪のために死んでくださり、私たちは赦されることを感謝し、主のために生きる者となりましょう。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。